DRM リストとアドホックカテゴリーリストの違いに関する分析

田中　光
(高知工科大学)

DRM パラダイムでは特定の単語（ルアー語）からの連想語からなるリスト（DRM リスト）を用い，このリストを実験参加者に記憶させることで学習時には提示しないルアー語の虚記憶を生起させる。DRM リスト以外にも近年では問題解決の際に一時的に心内に作成されるカテゴリー（アドホックカテゴリー）の事例で作成されたリストでも虚記憶が生起することが確認されている（例えば，田中，2019）。

アドホックカテゴリーは，特定の問題解決で必要となる事例で構成されるものであるが，その事例リストは，特定のテーマと関連した単語で構成されるという点で，DRM リストと類似している。そのため両者は同一のものである可能性がある。そこで本研究では，DRM リストとアドホックカテゴリーリストに違いがあるかを検討する。

方法

実験参加者　大学学部生 21 名であった。

材料　アドホックカテゴリーリストについては，田中（2019）から 12 リスト。DRM リストは宮地・山（2002）から 12 リストを使用した。

手続き　実験では各リストのカード（B6 サイズ）を用意した。カードには，リスト語を横書き縦 2 列（8 語×7 語）で配置した。参加者には 24 リストを 6×4 の並びで机の上に呈示した。参加者にはそのカードを 2 つにわけるように教示した。

結果と考察

単語リストがどのように分けられたかについて数量化三類による分析を行うため，アドホックカテゴリーの 1 つである「海水浴に持っていくもの」と同様のものとして判断された場合を Same 反応（1 で記録），異なるものとして判断された場合を Different 反応（0 で記録）とした。各反応の値に対する数量化三類による分析に基づき，固有値.44 の第 1 軸，固有値.14 の第 2 軸を採用した。第 1 軸を横軸，第 2 軸を縦軸とし，各リストのスコアについて散布図を作成した。散布図は Same 反応と Different 反応に分けて作成し，また，それぞれで Ward 法のクラスター分析を行った（Figure 1）。その結果，概ね DRM リストとアドホックカテゴリーリストに分かれたことから，両リストには客観的に違いがある可能性がある。

参考文献

宮地 弥生・山 祐嗣 (2002). 高い確率で虚記憶を生成する DRM パラダイムのための日本語リストの作成　基礎心理学研究，*21*, 21-26.

田中 光 (2019). アドホックリストの学習による虚記憶の生起メカニズムの検討――連想リストの比較を通して――広島大学大学院教育学研究科紀要第三部 (教育人間科学関連領域)，*68*, 121-129.

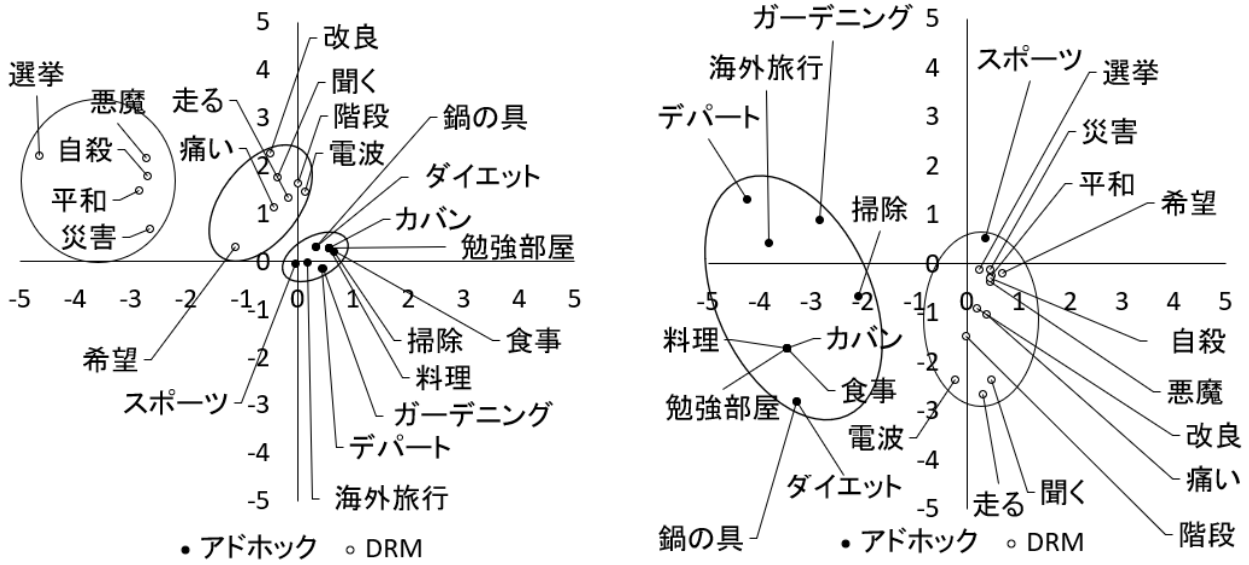

Figure 1. Same 反応（左），Different 反応（右）についての散布図（丸はクラスター分析に基づく）